

# 新春のごあいさつ



飯舘村長  
菅野 典雄

新年、明けましておめでとうございます。  
村民の皆さまには、すこやかな新年を迎えていただきたいものと、強く念じております。

早いもので、21世紀になってから10年が経ちました。改めて時代の流れの早さを感じるこの頃です。

時代に遅れることなく、むしろ先を見越し、時代を読む中で、村民の暮らしを向上させ、住みよい村づくりをとの思いをもって、及ばすながらも細心の目配り、心配りと決断をして、職を務めさせていただいているところです。

昨年は、村にとっても私にとっても例年以上に多忙な日を送った一年でした。

いわゆる、百年に一度という不況への対応として、経済雇用対策としてこれまで道路改良を15路線、約2億円を緊急発注しました。

また、緊急雇用としては、20事業、八千万円程の事業で、86人の雇用をしたところです。

# 新春のごあいさつ



飯舘村議会議長  
佐藤 長平

新年明けましておめでとうございます。  
平成22年の年頭に当たり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。村民の皆様には、日頃より村議会に對しまして格別のご支援とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

本年も決意を新たに、12人の議員が「チーム議会」として、村政の振興と発展に向けて、更に努力を重ねて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、平成21年を振り返りますと、全世界的な経済不況の回復は成らず、国内でも様々な緊急対策が成されたものの、回復の兆しが見えず、円高と物価安のデフレ経済に向かいつつあると危惧されております。

一方、年の瀬に発表されました一文字漢字に「新」が選ばれ、流行語大賞には「政権交代」が選ばれたように、新型インフルエンザの猛威や8月の総選挙で新政権が発足するなどの大きな変化の年でもありました。

しかしながら、新政権はスタートラインに立ったばかり

また、政権交代による変化、長年の懸念であったことへの改善、地域環境への取組み、農業振興策の検討など、めまぐるしく変わる世の中の流れに必死に向き合った一年でありました。

これで満足ということありませんが、議会の皆さまの大所高所からのご理解をいただきながら、役場職員全員でスピーディーに対処したところであります。

新たに迎えた22年は、村にとつてかつてない程の大きな変化の年でもありますので、さらに多忙をきわめる年となるであります。

20数年以上の課題であった統合診療所がスタートします。光ファイバの整備もあります。エコハウスの利活用、少子高齢化対策、産業の振興、教育の充実といずれもまたたなしに手を打っていかねばならないことばかりであります。

どのような難題に当たろうとも、常に村民の視線を忘れずに、さらに徹底的な情報公開を図り、誠心誠意事に当たれば、おのずと道は開けてくるものとの信念をもっているところです。村長としての判断が、後々の村の遅れにつながるのではないしなければなりません。

しかし、それもこれも村民の皆さまのご支援や力添えあつてのことです。その村民の皆さまからの応援が、私の「情熱の源」でありますから。

今年も、村民の皆さまのご家庭にさらなる幸せが訪れ、健やかで温かい家庭が営まれますよう、心よりお祈りいたします。新年に当たつてのごあいさつといたします。

で、成熟期を迎えるのはまだ先のようにですし、私たちの村においても今後、業界や団体を通じての産業、生活支援から、子ども手当や農家の戸別所得補償等のように、直接生活者に支援が届く制度、教育と医療福祉以外の一部補助金廃止により、自治体への一括交付金化に変わる制度など、これまで村が事業実施してきた施策が変わることも予想されます。

これは、国から地方に権限と財源を移す地方分権の確立です。政策の立案、決定と事業化、事業評価の全てに自己責任を負う制度ですので、その責任は、村長と役場職員だけが負うものではなく、自己決定する議会と議員にも発生します。

よつて議会は、政策の提案・立案と事業評価までの責任を負い、村政執行部と競い合う関係をつくつていかなければ成りません。これが、政権交代後に行われた村議選で選ばれた議員と議会の使命であり職務となりました。

こうしたことから今後、「政策の立案能力を蓄える」ための議会改革が求められます。12人の議員による「チーム議会」として、村民への情報発信と村民との交流を通じて、政策立案能力を高めていくことが必要となってきます。

今年も村民の皆様の声を村政に反映させるとともに、議会自らが政策の提案や立案を通じて、飯舘村の発展と村民福祉の向上に努力を重ねて参ります。

今年一年、村民の皆様にとさらなる幸せが訪れ、健やかな年になりますようご祈願を致しまして、年頭のごあいさつとします。